

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都府キャンパス	都府キャンパス	開設学科	開設学科	子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ						授業形態	演習		
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	子ども教育学科各教員								ICT活 用	
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。</p> <p>2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。</p>									
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育専門ゼミⅠを次年度に履修すること。									
授業の進め方 と方法	<p>第1回～第4回では、今後の学びの課題を把握し、基礎的な論文の読解を行う。</p> <p>第5回～第10回では、グループで研究テーマを設定し、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を行い、結果をプレゼンテーション資料にまとめて発表する。</p> <p>第11回～第15回では、研究デザインについて学んだ後、現時点で関心のある研究テーマを明らかにし、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を研究概要としてまとめて、教員に向けて説明する。</p>									
授業計画 【第1回】	1. 学生生活 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導									
授業計画 【第2回】	2. 学生生活 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション									
授業計画 【第3回】	3. 読解 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。									
授業計画 【第4回】	4. 読解 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。									
授業計画 【第5回】	5. テーマと背景 ①全体的なプレゼンテーションの流れを確認する。 ②グループの研究テーマを決定する。 ③研究テーマに関する社会的背景を整理する。									
授業計画 【第6回】	6. 先行研究 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。									
授業計画 【第7回】	7. 発表準備(1) ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第8回】	8. 発表準備(2) ①研究テーマに関する背景や、先行研究からの結論をプレゼンテーション資料にまとめる。 ②グループで発表するための準備をする。									
授業計画 【第9回】	9. 卒業中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掘む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。									
授業計画 【第10回】	10. グループ発表 グループで研究テーマについて発表し、より良い発表の方法について議論する。									

授業計画 【第11回】	11. 研究デザイン ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③受けた指導をもとに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめる。
授業計画 【第12回】	12. テーマと背景 ①研究関心を持つテーマを決定する。 ②テーマに関する社会的背景を整理する。
授業計画 【第13回】	13. 先行研究 ①研究テーマに関する先行研究を読み、内容を理解する。 ②先行研究をレビューし、わかっていることとわかっていないことをまとめる。
授業計画 【第14回】	14. 研究概要作成と発表 ①研究テーマに関する背景整理や先行研究レビュー、次年度以降に研究したいことを研究概要としてまとめる。 ②研究概要について発表し、議論で指摘された点を改善する。
授業計画 【第15回】	15. 研究室訪問 2人以上の教員を訪問し、研究概要について指導を受け、改善する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外学習【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	